



水道発祥の地・米内浄水場にヤエベニシダレヒガンザクラを植樹



水の故郷を訪ねて

● 青木 裕子さん

盛岡は何度かお邪魔しているんですが、ゆっくり見せていただいたのは初めて。山があって広々としていて、ビノビノしていて、という漠然としたイメージだったんですが、盛岡は文化が詰まったところ、そしてそれをすごく大事にしていらっしゃるのことがよくわかりました。30万都市でこのくらい文化に力を入れていらっしゃるの素晴らしい。保存とかね、

賢治のリズムが米内に流れる

熱意とか意気込みとか、ここに住んでいらっしゃる方のチカラなんだなと思ひながら拝見していました。

アナウンサー時代にはじめた朗読をずっと続けていますが、朗読の面白さは“音”なんです。最初はね、宮沢賢治の独特のリズムが他にないものだったので不思議に思ったんです。それが取り組み始めたら標準語のリズムではないとても素敵なリズムなんです。宇宙観、世界観をこんなふうにとらえた作家は他にいないと、どんどん面白くなっていきました。朗読の魅力に取りつかれるきっかけになったのが宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』だったんです。

先ほど米内浄水場、取水口にご案内いただきました。水量がすごく豊かなので驚きました。今日講演会で賢治の『やまなし』を読ませて頂きますけれども、魚が銀のハラをひるがえしてすーっと上がっていくのを見ているような感じがして、水の中から見たらそんなふうに見えるんじゃないかと思いましたね。

賢治の世界が、今の盛岡に残っている、と感じました。古いものを新しくしながらちゃんと残していこうという気持ちが風景の中に伝わっています。それをみて子供たちが育ち、風土を愛することを大事にしていく心が育まれているのではないのでしょうか。宮沢賢治の精神がここに生きているなあって、盛岡にきて感じる事ができました。

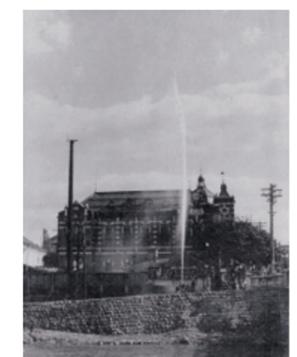
青木 裕子 あおき ゆうこ  
軽井沢朗読館長・朗読家。「もりおか水道フォーラム」記念講演のため11月9日来盛岡県生まれ



天神町での配水管設置工事(昭和8年6月17日)

創設期

鹿藩置県により県庁所在地として政治経済の中心として発展してきた盛岡市。人口、家屋の増加に伴い、生活排水も増え、地下水の汚染が深刻化。浅井戸が頼りの飲料水は、大腸菌などによる汚染が目立ち始め、伝染病の発生源となることもしばしばあったのです。また、夏には濁水に苦しみ、火災が起これば消火活動にも困難をきたす状況でした。こうした背景から当時の中村謙蔵市長は、万難を排し水道事業に着手。市の要請を受けて水道事業の権威とされた内務省の河川協介技師が来盛し、米内川、中津川、雫石川の3河川を視察します。中でも米内川の豊富な水量と優れた水質に目をつけ、たとえ干ばつ期でも、水の確保に十分な支障はないと折り紙を付けました。



中の橋東詰での放水試験(昭和9年11月23日)

昭和8年5月、いよいよ水道事業創設工事が本格的に開始しました。当時の工事はほとんどが人力によるものでした。つるはしとスコップで男性が穴を掘り、女性がモッコで担ぎ出す。その工事は、非常に厳しいものでした。工事開始から約2年、難工事の末に、昭和9年12月1日、一般家庭および職場に水が供給されたのです。待ちに待った通水。蛇口から流

拡張期そして未来へ

幾多の困難を越え、高度経済成長とともに盛岡の街が形成され、人口は急激な増加を続けました。水道事業は、増え続ける水需要や地域による給水量のばらつきに対応するため、7次にわたる拡張事業を進めてきました。都南村や玉山村との合併による給水区域の拡張などにも取り組み、平成25年度には、給水人口は約29万人、水道普及率は約98パーセントに発展しました。しかし、現在、水道事業を取り巻く環境は、拡張を続けてきた時代とは大きく異なっています。人口減少にもなう水需要の減少や、老朽化した膨大な施設の更新、自然災害への対策など、将来の懸念材料が数多く存在しています。盛岡市の水道事業は、給水開始から80年間、市民の皆さまとともに困難に立ち向かい、安全で安心な水道水を安定的にお届けしてきました。先人たちの努力によって築いてきた水道を次の世代へ引き継ぐため、これからも邁進していきます。

れ出るキレイな水に市民は歓声をあげて喜んだと言われます。水道の完成は、革命的な出来事だったのです。しかし、始めは給水の申込件数が増えないという現実もありました。軒軒訪問して説明をして歩くなどの地道な取り組みを行うことで、ようやく生活に根ざした水道としての歩みをはじめた頃、時代は戦争へと突き進んでいったのです。断水と給水制限が余儀なくされる中、追い討ちをかけるように昭和19年7月、盛岡は豪雨に見舞われます。米内川は未曾有の洪水と化し、川沿いの送水管を破壊し、市内は断水に陥りました。折からの資材不足で復旧が進まず、関係者の懸命な作業は一月にも及び、盛岡市水道の歴史で最も困難を極めたと言われます。



# 清冽な水街を創る

盛岡市の水道が誕生したのは昭和9年12月1日。以来、安全で、安心な、そして、おいしい水道水を昼夜を分かたず供給し続け、市民生活を支え続けてきました。そして、80年の歴史に培われた水道の「心」と「技」は、美しい結晶となって、市内を縦横に走る水道管路を巡っています。市はこれを契機に、記念事業として「水道フォーラム」の開催や「技術研修施設」の整備などを行いました。

## 水道フォーラム

水道の歴史をたどり、水の恵みを語り合おうと、「水道フォーラム」が11月9日、鉈屋町のもりおか町家物語館で開かれました。同館は市水道の給水第1号となった浜藤酒造の酒蔵を改築したもの。記念式に続き、功労のあった方々への感謝状の贈呈、座談会、記念講演が行われ、参加者180人はそれぞれに「もりおかの水」への思いを深く、新たにしました。



平野 耕一郎

平成25年に盛岡市上下水道事業管理者に就任。安全で安心な水道水を次代に引き継ぐ使命を果たすため、技術者の人材育成などに力を注ぐ。



真山 重博さん

『文化地層研究会』の立ち上げに参加。盛岡の魅力伝える市民講座の講師など数多く務める。著書に「もりおか歴史散歩 旧町名編」など。



畑中 美耶子さん

もりおか歴史文化館の初代館長。多彩な表現力を駆使した一人芝居や、演劇の分野でも活躍中。盛岡のおもてなしの心を盛岡弁で伝えている。



河辺 邦博さん

テレビ報道番組のメインキャスターや報道記者として活躍。現在は、IBCアナウンス学院の学院長として、放送文化の分野で人材の育成に貢献。

### ■記念式・感謝状贈呈

#### 深く感謝の意を表し 水道事業伸展を誓う

記念式は、水道事業80年の軌跡をたどり、市民とともに歩んできた意義と果たしてきた役割を市長が高らかに宣言し、これからの水道事業の伸展を誓いました。引き続き、これまで功労のあった前市上下水道事業経営審議会長・柴田義春さん、前市水道水源保護審議会長・村井宏さん、市上下水道工業協同組合に対して感謝状が贈られました。

### ■座談会

#### 城下町は治水に始まり 水道は街の発展に貢献

座談会は、「水道事業80年の歩み〜そして未来〜」をテーマに、IBCアナウンス学院長・河辺邦博さんをコーディネーターにもりおか歴史文化館長・畑中美耶子さん、文化地層研究会・真山重博さん、平野耕一郎・市上下水道事業管理者をパネリストにして開催されました。城下町の治水事業から始まり、水道事業の創設、黎明期、拡大伸展の時代、そして将来の事業の展開まで座談は繰り広げられ、ユーモアや機知に富む話題の



盛岡に生きた賢治の世界へ誘う青木さん



水の世界を肌で感じる参加者

### ■記念講演

#### 朗読が心に響き渡り 賢治の世界が広がる

日本で初めての朗読専門のホールを長野県軽井沢町に開設した、元NHKアナウンサー・青木裕子さんが「盛岡の水と光、そよぐ風」賢治が生きた美しい街」と題して、記念講演が開かれました。講演は、宮沢賢治の作品「銀河鉄道の夜」の朗読でスタート。朗読界の第一人者が巧みに表現する賢治の世界が、会場に広がり、参加者はその世界に魅了されました。朗読に続く講演では「盛岡の水道水が美味しい。そのままただで、柔らかに



創設当時から現在に至るまでの水道史を展示

## 記念誌を発刊へ

### 技術の系譜や業績を掲載

市の水道事業の根幹を担うのは水道技術です。浄水施設や給水区域全域への配水管路網の整備、維持補修は高い技術と信頼性が求められます。これまで培ってきた技術や数々の業績を納めた記念誌を作成し、今後の水道技術の継承に役立てていくことにしています。

## 米内に記念植樹

### 未来への新たなシンボルへ 水道発祥の地に桜を植樹

各家庭への給水開始から80年に当たる平成26年12月1日。市水道の発祥の地である米内浄水場で記念植樹が行われました。雨模様の中、米内地区の皆さんをはじめ、米内小の児童や職員ら130人が参加しました。谷藤市長をはじめ、上米内地区活動推進協議会長の浦波勝三さん、上米内振興会長の大崎長市さん、米内小6年の加藤誠士郎さん、5年の中村

彩耶子さん、平野上下水道事業管理者がヤエビシダレヒガンザクラを植樹しました。

創設から80年の水道事業の歴史を刻み、今も給水の要として稼働を続ける米内浄水場に、新たな時代に向けたシンボルが加わり、息づき始めました。

## 技術研修施設整備

去る10月23日、水道技術の継承、技術力の維持・向上および災害時の対応能力を確保することを目的に新庄浄水場敷地内に「水道技術研修施設」が整備され開所式が開催されました。

開所式には水道関係者をはじめ、県内外から80人が出席。職員による施設の説明にあわせ実技も行われました。他に研修施設は3つのエリアに分かれ、他に



工事現場を再現し、漏水対応を訓練する研修ピット

災害時などに備えた給水塔も1基設置。「量水器交換研修エリア」ではメーターボックス内にある量水器交換、蛇口や水抜き栓を分解してパッキン交換を行ったり内筒交換などの研修ができます。「漏水調査研修エリア」では埋設されている水道管からの漏水音を実際に調査機器等を使いながら確認し、漏水を発見する研修が行えます。さらに「漏水修理・消火栓研修エリア」においては工事現場を再現した研修ピットを1基と地上式消火栓1基を備えています。ここでは漏水を発生させ、止水のため金具を設置する応急処置や消火栓修理などの研修が行えます。これまで仮設の配管や県外の施設で研修が行われてきましたが、県内初の研修施設として今後はここで学ぶことができるようになります。実際の漏水事故を想定した修理や調査などの訓練が常時可能となることから、パートナーシップ協定を結ぶ八戸圏域水道企業団と合同で研修を行うなど、広域的な水道技術の向上を図る施設として期待が寄せられています。

## 感謝状受贈者の紹介

柴田さん、村井さん、市民の快適な暮らしを支える水道サービス機関として尽力された盛岡市上下水道工事協同組合の2個人1団体です。



村井 宏さん  
前盛岡市水道水源保護審議会長

平成14年に設置された盛岡市水道水源保護審議会の初代会長として、水源保護に関する各種施策の充実などに寄与し、安全で清浄な水道水供給の実現に尽力しました。

柴田 義春さん  
前盛岡市上下水道事業経営審議会長

昭和60年に盛岡市水道事業経営審議会委員に就任。平成6年から会長として、長年にわたり水道事業の発展と経営の健全化、安定給水の実現に大きく貢献しました。

てカラダの隅々まで染み通っていくよう」と盛岡の水道水の感想に始まり、「優れた作家がつづる日本語には独特の美しさとリズムがある。特に、賢治の作品は言葉そのものが音楽のようです」と賢治の作品に惹かれた理由を。また、「朗読館」周辺の水事情に触れながら、水の大切さを実感していることや、米内浄水場の取水場を見学し、透き通る豊富な水に圧倒されたことなどが語られました。最後に「やまなし」に出てくる魚が水中から空を見上げるシーンを例にとり、賢治の生きた自然を守ることを、つくり、育てることが豊かな盛岡の水を守ることに繋がると講演を締めくくりました。

### ■パネル展開催

#### 創設期に思いを馳せ 先人の偉業を感じる

浜藤ホールのホワイエでは、水道が各家庭へ給水開始された朗報を告げる岩手日報の記事や、水道管敷設工事を伝える写真などのパネル29点が展示され、「盛岡城築城以来の大偉業」とされる水道事業の様子が紹介されました。